

生活習慣が与える創造性への影響

1220456 久米川晃祐

指導教員 小谷浩示

【要旨】

創造性は、日本社会だけではなく世界中の経済活動の発展に必要不可欠な要素である。急速に形を変えていく現代社会において、創造性の需要はますます増加していくと考えられる。本研究では、創造性が高い人はどういう特徴があるのか。また、創造性を高めるにはどうしたらよいか。という問題を解決する為に、日々の生活習慣に着目し、分析を行う。発散的思考力を創造性の尺度として用い、Occupational enjoyment (いかに楽しみながら職業的な活動を行っているか)、CFC (未来結果熟考尺度)、Generativity (次世代育成能力) を用い、実験調査を行うことによりデータを収集した。回帰分析を行った結果、Occupational enjoyment は、個人の創造性に対し正の相関関係があることが明らかになった。本研究結果では、自分が楽しいと思える職業的な活動をすることで、創造性を高めることが出来るという事が明らかになった。